

KOMOTO STYLE

Vol.19

2019 Spring-Summer

REFORM
USER
REPORT

リフォームユーザーレポート

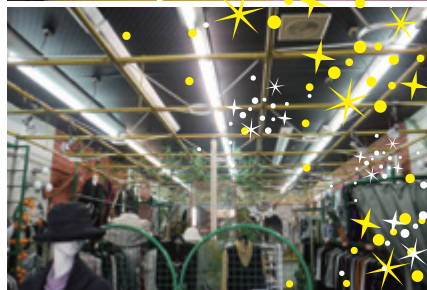
特集



快適に生まれ変わった築90年の古民家



思い出を未来へつなげるリフォーム



TAKE FREE

REFORM USER REPORT

リフォームユーザーレポート

邑楽郡/U邸

#01



After

外壁も一新し、落ち着いた重厚感ある佇まいに



Before

快適に生まれ変わった築90年の古民家

遠くからでも目を引く、和モダンな佇まいが素敵なU邸。

高齢のお父様との同居と、娘さん一家との敷地内同居をきっかけに、築90年という歴史ある住宅の大規模リフォームを行ったそうです。

取材に伺ったこの日は、Uさんご夫妻と、この幼稚園入園という孫のあさひちゃんが笑顔いっぱいでお迎えしてくれました。



おじちゃんと
おばあちゃんのおうち、
だーいすき!



After

和室が洋風のリビングに変身
押し入れを活かして家族の写真を飾るスペースをつくりました



Before

あらゆる世代が暮らしやすい住まいに

はじめに建てられたのはなんと大正末期というU邸。移築や増築を経て、工事前は母屋にはお父様が一人で住み、Uさん夫妻は敷地内にある別の家で暮らしていたそうです。

「でも、父も高齢になって足腰が弱くなってしまい、一緒に住んだ方が安心だろうと同居を決めました。ちょうど同じ頃、館林市内でアパート住まいをしていた娘一家が地元に戻ってくることになり、良い機会だと思ってリフォームをすることにしたんです」と、ご主人。リフォーム後はご夫妻とお父様が一緒に住み、元々暮らしていた敷地内の家に娘さん家族がお引越し。4世代での同居&近居生活がスタートしました。

90年もの歳月を重ねた家は、歴史があるからこそ不便さもあったようで…。「古い家なのでとにかく段差が多く、とくに父にとっては家の中を移動するのも大変でした。現場監督の須之内さんに希望をお伝えして、できる限り段差を

少なくとももらったんです」とご主人は言います。お父様の部屋からトイレや浴室につながる廊下は、手すりも設置した完全バリアフリーに。広々としたリビングダイニングも床をフラットにして、お父様はもちろん、あさひちゃんにも安心のスペースとなりました。



After

2部屋をつなげ、広々としたリビングダイニングスペースに



Before

耐震性や断熱性アップで機能面もバッチリ

次にリフォームのポイントとしてご夫妻があげてくれたのが「耐震性と断熱性」です。今後も長く住みつけて歴史をつなげてゆくためには、耐震性の向上は必要不可欠だったといいます。

「耐震機能を上げるために、筋交い(柱と柱の間に斜めに入れる補強材)をたくさん入れてもらいました。ただ、土壁の部分などもあり、工事は大変だったと思います」と言うご主人に続き、現場監督の須之内さんも「年月を経てゆがんでしまった柱などもあり、どうしても直せない部分は、強度を保ちつつキレイに見えるように調整をしました」と語ります。

もう一つのポイントである断熱性についても、「以前とは比べものにならないくらい快適です。省エネにもつながって言うことなしですね」と、ご夫婦ともに満足そうな様子。断熱サッシやリビングの床暖房も導入し、寒い時期でもポカポカと暖かく過ごせたそうです。

また、奥様からは「収納スペースをしっかり確保したいと思っていました。前の家ではキッチンカウンターの下に何も収納できなくて、空間がもったいないと感じていたんです」というお話が。スペースを上手に活用し、キッチンをはじめ、リビングや洗面・脱衣所、2階の寝室などに、大容量の収納を実現させました。ダイニングテーブルの後ろには、ご主人のアイデアだという便利な収納棚が。押し入れだったスペースを前後の棚に分け、前列の棚を左右にスライドさせることで、奥にしまったものもラクに取り出せるように工夫されています。棚の扉を閉めてしまえば、お部屋の中はスッキリ! 「須之内さんに相談したら、思った通りのものを作ってくれました」というご主人に続き、奥様も「食料品のストックなども、すぐ手の届くところにしまえてとても便利。収納家具を置く必要がありません」と笑顔で語ってくれました。



広くて使いやすいキッチンで料理もはかどります



玄関の扉や庇も新しくなり、出入りがスムーズになりました



現場監督の須之内さん

REFORM USER REPORT

リフォームユーザーレポート

邑楽郡/U邸

#01



リフォームで孫のあさひちゃんとの時間も増えました



昔のまま残った差鴨居が、風情ある旅館のような雰囲気を醸し出しています



2階の寝室の奥にはご主人の書斎が

廊下は完全バリアフリーで移動もスムーズ

広くなったお部屋でチャンバラごっこ



Before



U家の歴史が詰まった貴重なアルバム

歴史を受け継ぎ、未来へ繋げる家

インタビュー中、「工事で片付けをしていたら出てきたんです」と、ご主人が一冊のアルバムを見せてくれました。そこには、建てられた当時の茅葺き屋根の家や、先祖の方々の貴重な写真がおさめられています。

約90年もの間歴史を紡いできた家の面影は、実はリフォーム後の現在も残されています。たとえば、和モダンな雰囲気が素敵な化粧梁や差鴨居は昔のままのもの。長い年月が生み出した深い褐色と、スッキリとした白壁とのコントラストが、オシャレで温かみのあるくつろぎ空間を演出しています。リビングの一角にあった神棚も手を加えずにそのまま残り、下にあった押し入れを、家族の写真などを飾るインテリアスペースに変身させました。

一方で、昔ながらの造りだった屋内は、生活動線を意識した間取りにチェンジ。お父様の居室から家族が集うリビングダイニング、またトイレや浴室など

への移動もスムーズで、高齢でも暮らしやすい工夫がされています。「キッチンやリビングからも、部屋にいる父の様子がよく分かるようになりました。全く新しい環境ではなく、リフォームしても以前の家の面影が残ることで、父も安心して暮らせるのだと思います」と奥様。古いものと新しいものが上手に調和し、心落ち着く安心の住まいとなっているのですね。



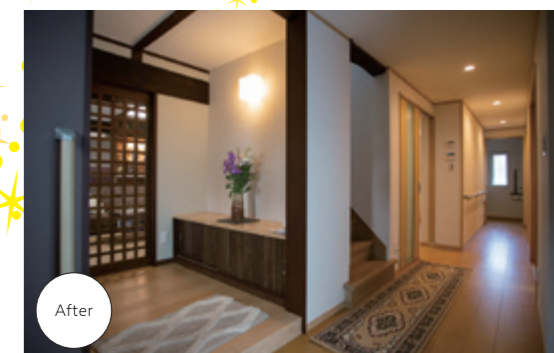
4世代が笑顔になる団らんの場

これまで建築に関する仕事にも携わった経験を持つご主人。須之内さんは「専門的な知識をお持ちなので、ご要望も確。分かりやすく伝えていただいてこちらでも助かりました」と言います。

「今回のリフォームにあたっては、実は他社にも色々相談し検討したのですが、細かい希望を叶えるのは難しそうだなと思いました。そこで、地元の環境に熟知し、住宅建設に豊富な実績とノウハウのある河本工業さんをお願いすることにしました」とご主人。「須之内さんとはやりとりもスムーズで、本当に親切に対応してもらいました。希望通りのリフォームとなって満足しています」と、笑顔で語ってくれました。

リフォーム後の家は、敷地内に住む娘さん家族からも「落ち着く」と好評なのだとか。広くなったリビングダイニングに娘さん一家も集まり、4世代6人で団らんを楽しむことも多いそうです。あさひちゃんもすぐ遊びに来られるようになり、

「この子の顔を見ると、父の表情も明るくなるんですよ」と奥様。快適になった住まいで、ここからまた新しい家族の歴史が繋がっていくのでしょうか。



After

入口の段差を低くし、生活動線を考慮した間取りに変更

私のピアノ上手でしょ!



上のマークにスマートフォンをかざすと取材中の動画を視聴できます。視聴方法は裏表紙の「動画でチェック!」をご覧ください。

REFORM USER REPORT

リフォームユーザーレポート

館林市 / シャロン整骨院

#02



外観の「レディスショップシャロン」の看板は、あえて残してあるそう



After

「希望通りのリフォームが叶いました!」



受付に設置されたカウンターはブティックで使っていたもの



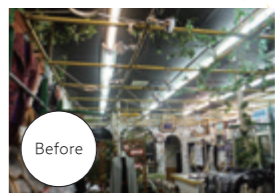
会長の潔彦さん



施工担当者の神澤さん



たくさんの服が並んでいた店内は、温かみのある施術室に



Before

After

思い出を未来へつなげるリフォーム

館林駅からほど近くに、この春オープンした「シャロン整骨院」。実は以前は、ブティック「レディスショップ シャロン」でした。ブティックから整骨院への大変身となった今回のリフォーム。会長の尾花潔彦さんと、息子で院長の尾花正貴さんにお話を伺いました。

ブティックから整骨院への大変身

お父様の潔彦さんが、この場所で「レディスショップ シャロン」をオープンしたのは、今から50年近く前のこと。以来長きにわたって、館林の地域の皆さんに愛されてきました。今回、近隣の道路拡張計画が持ち上がったのをきっかけに、お店をリフォームすることに。松原で「尾花接骨院」を開く正貴さんが、ちょうど分院の開設を検討していたこともあり、整骨院としてリニューアルすることになりました。ブティックから整骨院へ大胆チェンジですが、造り自体はあまり変わっていないとのこと。施工担当者の神澤さんも、「とても

しっかり建てられていて、50年近く経つのにほとんど痛んでいませんでした」と驚いたそうです。工事では痛んだ柱部分のみ補強を加え、床を以前よりも高くなりました。「頭寒足熱という言葉があるように、とくに腰や膝の痛みで悩む人にとって、冷えが一番の大敵です。床の高さを上げることで足元の冷えをやわらげました」と潔彦さん。実は潔彦さんも以前近所で指圧治療所を開いており、施術の知識は豊富です。入口にはスロープも設置され、患者さんのことを第一に考えた院づくりがされています。

思い出を形に残すリフォーム

「リフォームにあたっては、スムーズな施術のための動線を意識しました」と語るのは、院長の正貴さん。長く現場に携わってきた経験を活かし、患者さんも施術者も快適に動けるよう工夫をしたそうです。片側が白、もう片側がサーモンピンクというオシャレな壁紙も、正貴さんが選んだもの。「院内を温かいイメージにしたくて、神澤さんに相談しながら決めました」と語ってくれました。また、入口や院内で目を引くのが、オシャレな白いブロックの壁です。「これは

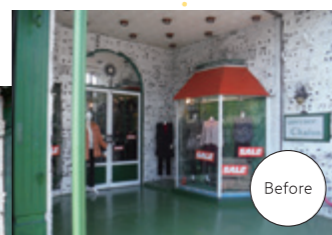
ブティック時代からそのまま残したものの。よく見ると「シャロン」の文字が彫られているんですよ」という潔彦さんに続き、正貴さんも「このブロックはどうしても残したくて、神澤さんにお願いをしました。地域の皆様にとっても、シャロンの面影がある方が身近に感じていただけるのではないかと考えています」と語ります。受付のカウンターや院内の鏡なども、シャロン時代から引き継いでいるのだとか。院内の雰囲気とも違和感なくマッチしています。

愛着ある地域に恩返しを

「河本工業さんとは以前からお付き合いがあったものの、工事をお願いしたのは今回が初めて」というお二人。でも、丁寧なコミュニケーションで、イメージの食い違いなどは全くなかったといいます。「神澤さんには話しやすさもあってわがままもたくさん言ってしまいましたが(笑)、スピーディに対応してくれて本当に感謝しています。思った通りのリフォームが叶いました」と、揃って笑顔を見せてくれました。

整骨院の2階にある住まいは、正貴さんにとって生まれ育った実家でもあります。「地域の皆さんには子どもの頃からいろいろと面倒を見てもらいました。今度は私が皆さんの体の悩みに応え、恩返しをする番だと思っています」。潔彦さんも「整骨院のオープンが地域の活気につながれば嬉しいです」と語ります。「レディスショップ シャロン」の思い出を受け継ぎ、「シャロン整骨院」も、これから長く地域に愛されていくことでしょう。

ブロックの飾りやショーウィンドウなど、ブティック時代の面影を残した入口



Before

After

手当で行う手厚い施術

予約優先制

マッサージ・ハリ・灸・スポーツ障害・加圧トレーニング・美容はり・キャビテーション

骨盤矯正 関節の痛み 首痛 肩痛 腰痛 膝痛 交通事故 スポーツ外傷

シャロン鍼灸整骨院

ホテルファイン inn 館林

セブンイレブン

館林駅入口 中央通り

〒374-0024 群馬県館林市本町2丁目8-20

日曜・祝日 定休

TEL.0276-73-0075



上のマークにスマートフォンをかざすと取材中の動画を視聴できます。視聴方法は裏表紙の「動画でチェック!」をご覧ください。

あかげさまで3周年



超断熱 体験型モデルハウス

『komachi』

和と親しむ。最高水準の快適性。



高齢者
配慮型住宅

耐震等級3

住宅性能
表示制度対応

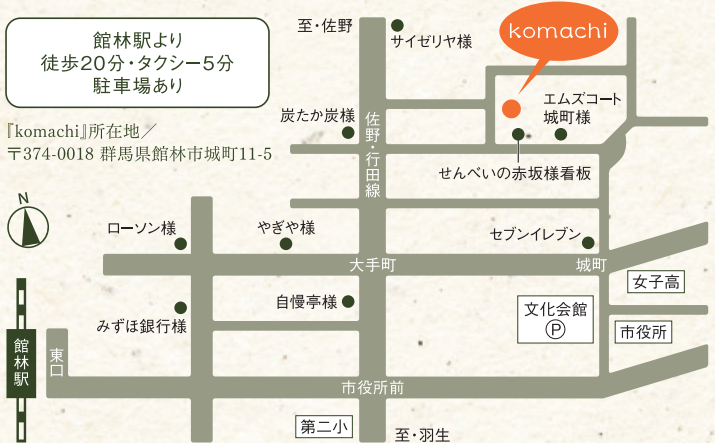
高い資産価値

動画でチェック!

あなたのスマートフォンに
無料アプリ「COCOAR2」を
ダウンロード、インストールしてください。



下のマーカーにスマホをかざすと、
現地まで動画でご案内します。



見学をご希望の方はこちらからご予約ください。※予約制

電話予約受付時間[平日9:00~17:00]

0276-72-3325

超断熱専用サイト

超断熱.jp



住宅事業部専用サイト

河本工業 住宅



プランニング

無料

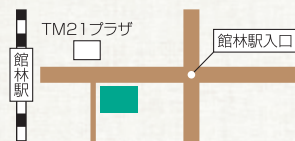
お気軽にご相談ください

河本リフォームセンターは

受付時間 / 9:00~17:00

毎月 第1日曜日は営業しています!

お気軽に
ご相談ください。



河本工業株式会社

www.komoto-style.jp

〒374-0057 館林市北成島町2544

河本工業 住宅

検索

新築のご用命はこちら

TEL.0276-72-3325

リフォームのご用命はこちら

0120-75-9188

FAX.0276-72-3327

本情報誌への掲載や出演のお問い合わせは info@coiki.net まで

POSTSCRIPT

今回の取材は、「継承」をテーマに掲載させていただきました。「築90年の古民家改修」、「老舗ブティックのリニューアル」とどちらも先代からの建物に「感謝」と「敬意」を表し、次世代への新たなスタートとして当社も誠心誠意お手伝いさせていただきました。
また、秋号に盛りだくさんの情報をお届けできることを楽しみにしております!

KOMOTO STYLE 編集委員会